

## 【事例 2】

### ～建設会社による耕作放棄地を活用したブルーベリー栽培～

#### 【愛知県・豊田市】

##### (1) 経緯

- 豊田市の旧稲武町は長野、岐阜両県境に接する人口3千人ほどの山村で、名古屋市より車で1時間半程度、豊田市中心部から1時間程度である。
- (株)杉田組は建設業を営んでいるが、平成17年より農地を借り受けブルーベリー栽培に着手した。
- 当時、建設業は請負工事がピーク時の半分程度に減り、建設業の将来に不安を抱いていたこと、また、地元の荒れ果てた農地を元に戻し、農地の保全につなげたいとの思いから、耕作放棄地を活かした農業に取り組むこととなった。
- 作物選定にあたっては様々検討したが、初期投資が比較的少ないこと、建設業の仕事量が少ない5月～8月の労働力の有効活用が図れること等から、ブルーベリーを選定した。
- 平成17年に植栽した園地0.7haが3年を経過し収穫可能となっており、もぎ取り体験の受入、直売及び加工品の販売に取り組んでいる。毎年、栽培面積を拡大してきており、現在の栽培面積は約2haである。



ブルーベリー園全景



もぎとり体験風景

##### (2) 取組の状況

###### ①園地の確保

- 平成17年に植栽した園地0.7haは、遊休化した田を社長が個人で農地法3条により借り入れている。その後、豊田市が平成18年度に基本構想を見直し、特定法人の参入が可能となったことから、平成19年5月に特定法人貸付事業で0.7haを豊田市を介して借り入れている。この他に社長が個人で0.6haを借り入れており、社長個人での借入は計1.3haである。
- 園地は4カ所に分散しているが、遠いところでも車で5分程度で、筆数は全部で18筆で1筆当たりの面積は10a程度である。
- いずれも、高齢化等により耕作ができなくなった耕作放棄地を所有者から依頼される形で借り受けており、所有者からは借地料はいらないとされているが、10a当たり1万円の借地料を支払っている。

## ②園地の整備

■借り入れた耕作放棄地は耕作されなくなって3年程度経過したものが多く、草刈り・抜根、暗渠排水の設置、耕起などは自社の重機を使って直営施工で行っており、これらの整備費用は10a当たり30万円程度で収まっている。このほかの費用としては、土壌改良材のビートモスが10a当たり15万円程度、苗木120本が15万円程度である。



平成17年定植のブルーベリー



ブルーベリーの実

■ビートモスを散布後、耕起して畝たてを行い苗木（2年生）を植栽している。また、雑草対策として木材チップをマルチ材として使用しており、園地に10cm程度敷き詰めている。なお、苗木の購入に際して、旧稲武町から購入費用の2分の1の補助を受けたが、それ以外については補助事業等の活用はしていない。

## ③経営の状況

- 特定法人としての農業従事役員は会社の取締役である社長夫人であり、農業従事者数は常時従事者2名（うち1名は平成18年採用）、臨時雇用3名である。
- 社長及び社長夫人は農業の経験は全くなく、また地元ではブルーベリーの営農指導者もいないため、日本ブルーベリー協会の副会長（元千葉県農業大学校教授）から直接指導を受けて栽培に取り組んでいる。副会長はブルーベリー栽培の権威であり、その普及に取り組んでおられ、同社の取り組みがきっかけとなって、年に数回旧稲武町を訪れ、同社を含む10名の町内の栽培グループ（稲武ブルーベリー倶楽部）を直接指導されている。
- 平成17年に植栽した国道沿いの農園の一角に自社で直売所を設け、平成20年7月1日にオープンしている。直売所はイタリアの農村風の建物であり、女性が立ち寄りたくなるような店である。もぎ取り体験の受入の他、ブルーベリー果実、ブルーベリーを使ったスイーツなど加工品の直売も行っている。なお、スイーツ製造は知り合いの菓子メーカーに委託している。また、直売や加工用のブルーベリーは、自社製のものだけでなく、町内の生産グループからも買い入れて販売・加工している。



国道沿いにある店の看板と駐車場



直売所「マコのお店」



商品

- 現在は生産量が少ないこともあり直売等で全て売れているが、今後は成園になるに従い生産量が大幅に増加（結実開始である植栽後3年目は1kg/本 → 成園になる植栽後7年目は4kg/本）するため、販売ルートとして道の駅や豊田市内のスーパーチェーンとの取引を検討している。
- これまで直売所の建設費用（約700万円）を含めると2千万円程度の投資を行ってきたが、樹の成長に伴いこれから収益を上げていく段階にきており、建設業の将来見通しが厳しい中ブルーベリーに希望を見いだしている。

#### ④成果

- 同社の取り組みにより雇用機会が創出されているとともに、同社が中心となって町内の生産グループを立ち上げ、耕作放棄地を活用したブルーベリーの栽培面積は地区全体で3haとなっている。また、豊田市よりIターンしてブルーベリー栽培に取り組んでいる1家族の研修受入を行うなど、同社のブルーベリー栽培が地域活性化に寄与している。